



秋田県五城目町

みんなの町議会



目次

- 6月定例会の経過・全員協議会・陳情 .. 2～3
- 常任委員会の焦点 4～5
- 一般質問に6人登壇 6～12
- あれ なんとなったべが!・議員研修報告 .. 13
- 楽しんでます・がんばってます 14

No.135

2018年7月1日

6人になった女性消防団員

6月
定例会

補正予算を可決

議会の経過

6月定例会は6月11日から15日までの5日間の日程で開かれた。

初日渡邊町長は行政報告で5月18日に発生した豪雨災害について報告した。「時間最大雨量は36ミ、累積雨量は170ミを記録し、午後1時20分に避難勧告を町全域に発令、ピーク時で8施設の避難所に、町民56世帯101人、福祉施設2施設から95人が避難した。

被害の状況は、住居の床上床下浸水が82棟、農地への土砂流入、用排水路の決壊など119か所、林道の路肩崩落30か所、河川の護岸決壊6か所、町道の路肩決壊2か所など発生しており、1日も早い復旧に向け万全を期す。」と述べた。

11日は被害現場・被害施設を視察した。

2日目の一般質問には6名が登壇。子育て支援、消防団の再編、洪水対策、特定健診・がん検診、過疎化と集落維持、安全安心なまちづくりなどの質問をした。

3日目は当局より平成30年度一

般会計補正予算案など議案8件、報告2件が上程され、各常任委員会で審査した。

最終日は各常任委員長報告の後、議案8件、報告2件を全会一致可決した。

また陳情4件を採択、1件を継続審査、2件を不採択とし、委員会提出議案4件を可決し閉会した。



一般質問を傍聴するJA女性部

議会議員

全員協議会

平成30年5月21日

協議案件

・五城目町空き家対策に係る補助金の制定について

報告案件

・五城目小学校改築事業について

補正予算の
主なもの

- ふるさと五城目会30周年記念事業補助金 43万円
- 空家解体撤去費等補助金 105万円
- コミュニティ事業補助金 350万円
- 農地・農業用施設災害復旧事業 2億682万円
- 林道施設災害復旧事業 1億4,130万円
- 土木施設災害復旧事業 2,923万円

(石井 光雅)

災害復旧費など 4億3,000万円の



陳情

五城目町議会が議決した意見書を
各関係機関に提出しました。

採択

◆地方財政の充実・強化を求める意見書
提出に関する陳情

連合秋田男鹿潟上南秋地区連絡会
議長 太田 修

採 択

◆教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合2分の1復元をはかるため
の、2019年度政府予算に係る意見書採択の陳情

秋田県教職員組合
執行委員長 櫻田 憂子

秋田県教職員組合男鹿南秋支部
支部長 細川 愛

採択

◆地方消費者行政に対する財政支援（交付金等）の継続・拡充を求める陳情書

秋田弁護士会
会長 赤坂 薫

採 択

◆ミツバチの大量死や子どもの発達障害の死因となる農産物検査法と植物防疫法、JAS法の抜本的な見直しが必要です。

生き物共生農業を進める会
今野 茂樹

不採択

◆パーキンソン病治療に関する要望書

全国パーキンソン病友の会
秋田県支部
支部長 渡邊 充

▼陳情採択に賛成の議員

畑澤 洋子

▼陳情採択に反対の議員

荒川 滋 椎名 志保
佐藤 慶彦 斎藤 晋
佐々木仁茂 石井 光雅
伊藤 正春 佐藤 重信
館岡 隆 千田 峯夫
荒川 正己 石川 交三

願意は理解出来るものの関係機関への意見書提出を求められていないことから、町行

不採択

◆主要地方道秋田八郎潟線矢場崎十字路の安全対策について（要望）

矢場崎町内会
会長 栗山 正一

西磯ノ目町内会
会長 佐藤 恒也

県立五城目高等学校同窓会
会長 伊藤 英紀

▼陳情採択に反対の議員

全議員

矢場崎十字路は八郎潟町であり、信号設置の要望に当たっては県の所管であることから町行政の権限ないし町議会の権限に属さないというのが反対の主な理由。

継続

◆臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情書

移植ツーリズムを考える会
理事 井田 敏美

政の権限ないし町議会の権限には属さないというのが反対の主な理由。

総務産業 常任委員会

再び襲った 豪雨による災害



再び各地で河川護岸が崩落（内川湯ノ又）

5月18日の豪雨被害状況は、建設課関係で13か所、被害報告額7,694万円、農林振興課関係は作物被害124.8ha、5,428万円、施設災害は119か所、1億8,600万円、林道30か所、1億1,220万円で、総額4億2,942万円。

復旧にあてる主な財源は、国庫負担金1億8,386万6千円、財政調整基金からの繰り入れ9,942万9千円、災害復旧債9,650万円、土木費県補助金500万円、災害復旧費分担金352万円など。

迅速な復旧に向け務めるよう求めた。

今年度のコミュニティ事業助成金は、久保町内会と昭辰町町内会に決まった。町では2件の申込みがあり、どちらも採用された。

テレビ、エアコン、冷蔵庫、除雪機、簡易物置などを購入し、補正予算額は2件で350万円。

コミュニティ事業助成 は2団体



大量の土砂と流木に覆われた水田（馬場目門前）

広ヶ野橋補修工事は 9月から

完成から48年が経過し老朽化が進んでいる広ヶ野橋の補修工事は9月から来年3月末まで行われる。当初、2か年継続事業としていたが追加の予算がついたことから今年度中に完成の予定となった。

工事期間中、徒歩と自転車は通行可能だが、自動車の通行は規制される。通学路でもあり、安全対策には十分に配慮し工事を進めるべきである。



通学路の安全確保は十分に

教育民生 常任委員会

「危険な空き家の解体」 「空き家の家財処分」に補助金の活用を



空き家情報は「五城目町お役立ちマップ」で

空き家対策にかかる経費の一部または全額を補助する2事業が実施される。

管理が行き届かず、倒壊の恐れがある空き家の解体・撤去にかかる経費の2分の1（上限30万円）を補助する「町空き家解体撤去費補助金」と空き家を利活用する際の家財道具などの処分費用を全額（上限5万円）補助する「町空き家家財道具等処分費補助金」である。

解体・撤去に関しては、現在4戸が該当すると思われる。

家財道具の撤去については、利活用可能な空き家所有者への積極的な情報発信と補助金の活用を周知していく。

小学校3・4年生で 外国語活動が始まる

学習指導要領の改訂により2020年度から小学校5・6年生で英語は教科となり、3・4年生では外国語活動が始まる。その移行期間として小学校では、今年度より5・6年生が年間50時間英語を学び、3・4年生は15時間カードゲームなどで外国語に触れる活動を行っている。

学級担任、ALTに加え、英語の教員免許を所持している町民1名が学習サポートとして配置され、指導にあたっている。



国際的な学びは町教育の特色



ポイントを集めて健康増進

高齢者の介護予防、生きがいづくりと社会参加活動の推進を目的に行っている「はつらつポイント事業」が好評を得ている。

各種介護予防教室に参加すると1回10ポイントを付与。300ポイントで千円の買物券が交付され、満点に満たなくても獲得ポイントに応じた健康商品と交換できる。

昨年度は、手帳交付者4

26名のうち満点の300ポイント獲得者は62名、ポイントで健康商品に換えた方が37名であった。

利用者からは「健康づくりで特典を得られる」との声が聞かれ、今後はポイント付与の対象事業を増やしたり、ポイントの有効期間の延長など、更に利用者が使いやすい仕組み作りを検討していく。

好評な「はつらつポイント事業」

一般質問

6議員が登壇 ただ 22項目を質す

一般質問とは？

一般質問は、年4回（3、6、9、12月）の町議会定例会において行われます。

議案とは関係なく、町政全般にわたって議員主導による政策論議であり、通告性が採用されています。

一般質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。

*五城目町議会では、質問者1人につき持ち時間は60分（質問・答弁含む）となっています。

質問者

椎名 志保 議員

- 職員の定数について
- 子育て支援について
- 町の伝統野菜ともいえるセリ栽培について
- 集中豪雨による被害の防止策について

佐藤 慶彦 議員

- まちづくりについて
- 道の駅五城目について
- 消防団について
- 小学校改築事業に関連して

斎藤 晋 議員

- 洪水対策について
- 匠の里五城目について
- 除雪対策について

畑澤 洋子 議員

- 豪雨時の安全対策を
- 特定健診・がん検診で病気の早期発見・重症化を減らす対策を
- 信号のない交差点の安全対策を

石川 交三 議員

- 大雨被害と対策について
- 過疎化の進行と集落維持について
- 消防団の再編と地域防災力について
- 馬場目村郷土史は存在するか

荒川 滋 議員

- 安全安心なまちづくりについて
- 町が掲げる少子化対策について
- 通常朝市（定期市）の活性化について
- 現在の五城目小学校敷地の利活用に対する町の考え

*誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。

一般質問

子育て支援 包括的な取り組みを

町長 オール行政で推進していく



椎名 志保

椎名 井川町は今年度、町民課に「こども・子育て支援班」を新設。新たに保健師2名を増員し、子育て世帯への訪問活動、今春開設した子育て支援多世代交流館「みなくる」での育児相談を行うなど、少子化対策に積極的に取り組んでいる。

町で行われている施策・支援が利用しやすく、子育て世帯に寄り添ったものとなるよう担当課の一つにし、子育て支援に包括的に取り組むことが出来ないか。

そのことにより、事務事業の見直し、業務のスリム化が可能となるのではないか。

町長 町民目線に合った子育て支援がなされているかの検証を行い、充実に力を入れる。複数課からなる少子



情報を集約し発信を

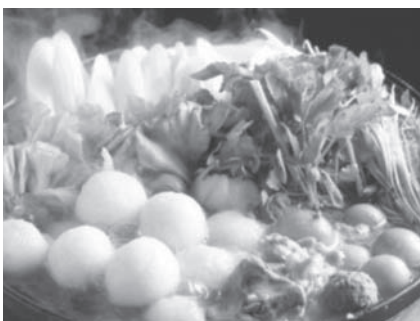
化・子育て対策チームとして、オール行政の体制で推進していく。

椎名 未就園児の居場所作りや子育て世帯を応援する取り組みがばらばらに行われ、情報の共有化が図られていない。町の出会い、子育て情報サイト「ARUCO」を活用し、行われている支援の集約、発信に努めるべきでないか。

町長 町としての情報収集、情報発信、情報共有などについて不足している部分を強化し、「ARUCO」を活用していく。

椎名 放課後児童クラブすずむしクラブの開設時間を19時までとし、もりやまこども園と足並みを揃え、子育て世帯のニーズに沿うべきでないか。

教育長 19時までの開設を試験的に実施したいと考えている。ニーズを把握し、新校舎への移転時までには開設時間を決定したいと考えている。



だまご鍋には五城目産セリを

**セリ栽培の継承に
取り組むべきでは**

椎名 だまご鍋には欠かせない町の伝統野菜とも言えるセリ栽培の継承を町はどう考えているか。

町長 町の振興作物、伝統野菜として、振興策を生産者と協議していく。

椎名 冬のハウス栽培の燃料として、小倉の堤の落差で小水力発電が可能であり、小倉地区をセリのメガ団地としてモデル事業にといったアイデアもある。

新たな農業経営の形、法人経営の手段の一つとして地域に提案してはどうか。

町長 生産者、消費者との連携をとりながら、安心で安全な町産野菜として供給できるようPRしていく。



たびたびの浸水被害を受ける住家

**豪雨被害防止に
抜本的な対策を**

椎名 今後も予想される豪雨に備え、川や水路の幅を広げる、川底を掘り下げる、川の流れを変える、堤防を嵩上げするといった抜本的な対策が必要ではないか。

町長 県に被害状況を伝え、河川の洲ざらいや拡幅、堤防の嵩上げなどを要望していく。内水氾濫による被害には、土のう積みやポンプアップによる応急措置をしながら、原因究明と解決策を見出すよう調査を進める。

あなたにかわって
聞きました

一般質問

新小学校校舎の 利用開始時期は

教育長 遅くとも2021年4月

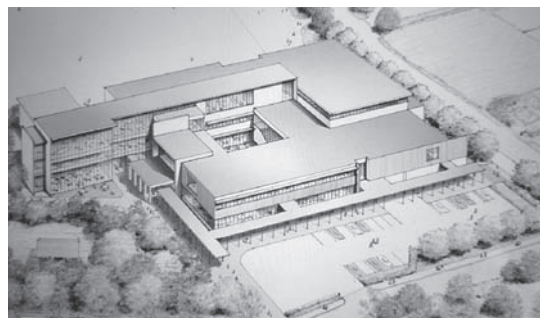


佐藤 慶彦

住民が利用しやすい施設に

佐藤 新小学校校舎、メディアセンターの利用開始時期は。
教育長 平成32年度の後半、遅くとも平成33年4月からは新校舎に通えるようにしたい。
佐藤 現校舎の解体時期、解体費用は。
教育長 平成33年度を予定している。
学校教育課長 2億円ほどかかると思われる。

日祭日の開館時間を町民に意見を聞き、十分検討したい。運営方法は地域図書室という観点から、外部への委託が可能かどうか生涯学習課と協議し、建設工事が完了する前に決定したい。



新小学校校舎の基本設計

相撲場の今後は

佐藤 相撲場撤去後の土地利用について、スクールパークのような話し合いの場が必要だ。
教育長 生涯学習エリアと小学校のエリアのミックスゾーンとして利用する計画で、子どもたちや地域の人たちの憩いの場となるよう整備したい。学校・保護者・町民の要望を聞く機会を設けたい。

通学路の安全対策を万全に



間伐や街灯の整備も必要

佐藤 信号や横断歩道など通学路の段階的整備を。
教育長 これから学校や関係機関と協議し、新しい通学路の設定作業を行い、実際に通学路を歩くなどして危険箇所を把握し、段階的な整備を行って行きたい。また道路の冠水対策として、建設課で雀館幹線排水路の測量設計調査業務委託を契約し、現場の調査を進めている。
佐藤 川沿いの安全対策も必要だ。
教育長 関係課と協議しながら安全対策に万全を期したい。

雇用を生むセンターに

佐藤 地域活性化支援センター（以下、センター）の指定管理者8月公募に向けた、業務内容や期間、団体の資格などの検討状況は。
町長 業務内容は、使用の許可、施設の維持管理、利用促進に関する業務のほか、新たな事業の創出や地域産業の育成・振興などに関する業務として、移住者や起業家の誘致など町と連携して行える業務を中心に調査検討している。
期間と資格は、最長でも5年、県内に事務所を有する法人を考えている。
佐藤 昨年5月、755人が来訪したが、行政職員や議員などの視察の割合が増え、純粋な交流人口は減っているように感じており、テコ入れが必要だ。また入居企業が成長し、センターを卒業して町中心部の空き店舗に移転するような流れが出来るシステムの導入が必要だ。

一般質問

洪水の被害対策は

町長 町民の安全と財産の保護を最優先し、
迅速に進める



斎藤 晋

町を流れる河川の 管理は何処

斎藤 堤防を越えて洪水になった箇所が多く発生したが、町民の安全安心を守るために県に対し河川改修の要望をしているか。

町長 町を流れる3河川は全て県管理になる。町では被害状況をきめ細かく県に報告し、堤防のかさ上げや河川の拡幅などの要望を行っている。

洪水と杉沢発電所の 放流は関係あるか

斎藤 今回の洪水時に杉沢発電所の放水はあったか。

町長 秋田発電・工業用水事務所に確認したところ、5月18日13時10分に久保水位観測所の水位が発電停止水位の2

m 40 cmに達したため発電放流を停止した。したがって、浸水被害などに影響するような発電放流は無かった。

洪水と八郎潟防潮 水門の開閉は関係 しているか

斎藤 八郎潟防潮水門の開閉規定は町の洪水対策と連動しているか。

町長 県の条例及び規定に基づき、八郎潟基幹施設管理事務所が管理運営している。基本的に調整池の水位により防潮水門の開閉がなされ、洪水時の海水面の上下などを見ながら対応している。今回の降雨時には水門を全て開放している。



毎年想定外の雨量 しかし同じ場所が被害に遭う



どこが橋・道・田、わからない



田んぼから流木が道路へ

今年の除雪に対する 町の意気込みは

斎藤 今年の除雪について、昨年度の総括を踏まえての変更点は。

町長 町民の安全・安心を

モットーに毎年冬期間の道路除雪作業を進めている。降雪前に除雪業者を集め除雪会議を開き、前年度の課題点や対策などに対し意見交換を行い、町民に対し出来るだけ迷惑を掛けないよう指導・指示や協力をお願いしている。町民からの苦情の多い路線に関しては、今後除雪業者の担当路線変更も考慮する。

その他に

- 洪水の被害状況は、復旧対策は、洪水の想定雨量は
 - 八郎潟残存湖周辺市町村の洪水被害状況は
 - 現在「匠」と呼ばれる職人は何人いるか
 - 匠の里復活のための対策は
 - 匠の里復活のための、国や県の支援はあるか
 - 昨年の道路除雪の総括は
- について質問しました。

一般質問

矢場崎十字路に安全対策を

町長 五城目警察署や関係機関と協議 していく

畑澤 長年、信号機の設置を望む声が続いていたが、望む安全対策は出来なかった。2年前に五城目署から「湖東厚生病院前に信号が設置されたので無理」との返事。その後も事故は起こっている。五城目高校でも登下校時の生徒の安全を気にしていたので車両台数を調査した。朝のピーク時、1時間に776台。夕のピーク時、1時間877台だった。危険な場面もあった。五城目高等学校教育振興会会長として信号機の設置を働きかけてほしい。

町長 五城目高校の通学路は県道から短く、歩道も設置されている。必要最小限の安全は確保されたと考えている。信号機設置については、関係機関と協議していく。



畑澤 洋子
(公明党)



毎年、黒土に出現する洪水

腎機能障害の重症化を防ぐ対策を

畑澤 糖尿病性腎症を放置しておき重症化してから人工透析を必要とする前に、特定検診の二次検診で、微量アルブミン尿検査（無料）を追加してほしい。

町長 糖尿病の早期発見の手段で、クレアチニン検査を町単独で特定検診に追加している。アルブミン尿検査は有用だが、医療機関での実施となるので、無料化については、医療機関と相談し検討してみる。

豪雨災害から命を守る。 河川の抜本的改修を

畑澤 ここ数年の気象の変化は大きい。同じような被害が同じような場所に爪痕を残す。修復はもちろんだが、被害を防ぐ先手が必要な時期に来ている。

町長 河川の急激なカーブによって洪水、氾濫の原因になるが、河川線形の改修は厳しい。被害が発生する部分箇所、河川の拡張や堤防の嵩上げていく。

げなど県に要望していく。

畑澤 町内道路浸水時の通行止めや作業の担当は。県外車に向けた「う回路情報」の充実を。

町長 通行止めの決定は各道路管理者である。伴う作業は町職員と作業員が行う。

う回路の看板は決定時に取りかかるが、状況が変わり作業が追いつかない場合もあり、通行止め前後に交通整理員を配置している。

肝炎ウィルス陽性者に早期治療を

畑澤 肝臓がんの原因となる肝炎ウィルス検査で、陽性の結果が出て治療していない人が、全国で53万人もいる。医療や薬剤が進歩している今、内服で治すことができる。

町長 肝炎ウィルス陽性者に対し、受診を確認し定期的にフォローアップしている。H26年度11人。H27年度3人。H28年度4人。H29年度2人の陽性者は、いずれも治療中である。

過疎化の進行を 町内会名で示してほしい

町長 63町内が準限界集落である

あなたにかわって
聞きました

一般質問



石川 交三
(日本共産党)



盆城庵より見た里山風景

石川 平成19年にも質問している。その後の推移を確認したい。

町長 準限界集落は55歳以上の人口が集落内人口の50%を占める集落で、71町内会のうち約9割にあたる63町内会が該当する。これに該当しない8町内会は新町、紀久栄町、新畑町、雀館、樋口、新里町、東磯ノ目、曙町で、これ以外

はすべて準限界集落である。限界集落は65歳以上人口が半数以上を占める集落で26町内会あり、御蔵町、小池町、川原町、一番町、長町、昭辰町、館町、久保、門前、中村、小野台、平ノ下、水沢、恋地、坊井地、杉沢、八田、台御蔵下、落合、高千、北北口、小倉、湯ノ又、浅見内、石崎、西野である。

危機的集落は65歳以上の人口が集落内人口の70%以上を占める集落で、富津内の落合町内会である。

石川 コンパクトシティ化を進めて限界集落を廃すべきという声があるがどう考えるか。

そこで頑張って暮らしている方々がいるから里山が守られている。効率性・経済性のみの考え方はいかなものかと思うがどうか。

町長 コンパクトシティは一般的には「単純に街を小さくする」だけでなく、集約して効率を上げ、経済を回す仕組みを創り出すものと言われるが、効率と経済性を追求し、全国で一律にコンパクトシティ化が進められる事には違和感を覚える。

女性消防職員の 複数採用を

石川 消防庁舎は女性採用を見込んで設計・建設している。特に救急の場合は女性隊員は必要だ。複数採用を求める。

町長 平成31年4月採用の消防職員募集を今年度2名の枠で実施する。25歳以下で学歴が高卒以上であること以外に条件を付けていない。消防士を目指す女性の積極的な応募を期待している。



女性の活躍が求められている

石川 「命のバトン」の活用実態はどうなっているか。

消防長 平成24年に救急医療情報キットを全戸配布した。救急出動した際に活用された事案は10件ほどである。玄関

先に貼ってあるステッカーで確認した。

石川 紛失したり、情報が古くなったりしていないか。実態把握と再度の周知徹底が必要ではないか。

消防長 今まで更新した例はなく、実態の把握もしていない。

町長 医療情報が医療機関にスムーズに伝わることは患者様や救急搬送にとつて有益だ。改めて周知徹底し、再配布も更に検討する。

馬場目村郷土史は 存在するか

石川 図書室などを探したが見つからず、個人が所有していることが判明した。協力を願ひ、町としてしっかりと整備・保管すべきだ。

町長 合併時に引き継がれている公文書が、適正に管理保管がなされておらず、おわびする。

あなたにかわって
聞きました

一般質問

繰り返される 豪雨被害をどう防ぐ

町長 河川管理者である県に
更なる要望活動を行う



堤防ギリギリまで水位が上がった馬場目川

***浚渫**
港湾・河川などの土砂を
さらって底面を下げる工事。

荒川 馬場目川水系の浚渫工事を八郎潟町とも連携し県に強力に働きかけるべき。また、今回も農業用水路からの浸水が被害をもたらしていたことから、水利組合との踏み込んだ話し合いが必要だ。



荒川 滋

町長 浚渫をおこなっても排水能力が増大したり水位が下がる訳ではなく、防潮水門によって水位が定まる。農業用水路についても早急に関係団体と協議して可能な対策を講じる。

荒川 今回の浸水域マップを作成し、町・消防署・町内会（自主防災組織）・消防団で被害情報を共有し迅速な対応につなげるべき。

町長 過去の浸水域に今回新たに発生した区域を加えてマップを調整し各団体への周知を連携に活用できるようにする。

荒川 床下浸水世帯へも災害見舞金の支給を。

町長 床下浸水世帯への支給は行わないが、ゴミ撤去の支援や消毒用消石灰配布などきめ細やかに対処するよう配慮している。

荒川 浸水世帯に消石灰が配布されるが、床下にどうやって散布するのか。住家や小屋、農地の後片付けをおこなう災害ボランティアを募る仕組み作りを。

町長 大規模災害の際に町社協と連携し『災害ボランティアセンター』を設置するが、今回の災害規模では該当しなかった。一部被災者には、町と社協、ボランティア連絡協議会が連携し作業した。



五城目朝市の大改革元年に

朝市出店者の話し合いの場を

荒川 朝ぶらやイベント時には大いに盛り上がるが、平日の通常朝市は苦戦が続く。平均出店者数の推移は。

町長 平成12年度73人、15年度60人、20年度48人、25年度37人、29年度30人。

荒川 ショッピング数数字だ。朝市大改革が必要である。朝市出店者（定市場組合員・非組合員・朝ぶら）による話し合いの場をもうけるべきだ。時間はあまり残されていない。

町長 計画している。案件は①朝市plus+について。

②平日開催における定期市の在り方。
今後定期市の開催形態を含め協議が必要と考える。

現在の五城目小学校敷地の利活用は

荒川 3年後の4月以降に解体予定の五城目小学校現校舎敷地利用をどう考えるか。五城目城、四波園と一体整備し町民憩いの里山にしては。

町長 敷地は土砂災害警戒区域になっていることから、人が働く場所としては使用できない。里山の構想とともに、町民の意見もうかがいながら検討する。



五小現校舎跡地を町民憩いの里山に

あれ

なんとになったべが！

平成29年6月定例会一般質問より

問

田町杉ヶ崎地区の豪雨被害の防止策を早急に。

答

関係者宅前の横断暗渠の通水作業が必要であると確認している。測量などを実施しているが、土地への立ち入りを拒否されているのでそのことを含め早急に対処していく。

現在

関係団体と関係者の理解を得るとともに、上流部での分水や排水、あるいは、新たな余水吐けルートが確保できないか、広範囲に調査し、豪雨被害の防止に対応したい。



増水に不安が募る住民

問

クマによる人身事故が後を絶たない。町の被害防止策は。

答

町広報やチラシ配布、広報車や鳥獣被害実施隊でのパトロールを実施し、被害防止に努めている。

現在

クマ出没に対する注意喚起の徹底とパトロール強化のほか、緊急メール、チラシ、町広報紙やウェブサイトなどにより町民に周知を図っている。また、当該町内会と地元猟友会の連携で、出没箇所を箱罠を設置するなど、鋭意被害防止に努めている。

問

公共施設利用料金の適正化を。

答

施設規模や利用度合い、維持管理費用や残存耐用年数などの客観的な分析と地域住民の愛着度など主観的な分析の2つの結果のバランスを計りながら、利用料金の適正性を検証したい。

現在

個別施設管理計画の策定作業と並行して公共施設の利用料金の適正化方針を示す方向で作業中であり、早い時期に公共施設利用料金の適正化方針素案を議会に示したい。

問

職員の採用で高卒に門戸を開いては。

答

地元には高校がある以上、職員採用における高卒枠が必要であると判断し、今年度から高卒枠を復活する。

現在

昨年度から高卒枠を復活して採用募集を行っている。今年度も採用予定数若干名であり、9月に選考試験を実施する。なお、消防職の募集基準（今年度2名募集）も高卒以上となっている。

(佐々木仁茂)

議員研修報告

研修名

町村議会議長・副議長研修会
「これからの町村議会を考える」

研修期間

5月28日

研修先

東京国際フォーラム

研修内容

◆議会の権能の使い道と議会の立ち位置の有効活用
↳小さな町議会の

小さな挑戦

長崎県小値賀町議会議長

立石 隆教氏

◆住民に向き合った議会運営と広報誌づくりを実践

福岡県大刀洗町議会議長

山内 剛氏

◆議会活性化への取り組み

↳住民から期待される

議会を目指して

福島県那賀町議会

議会改革調査特別委員長

柏木 岳氏

◆町村議会議員の議員報酬等のあり方（中間報告）

山梨学院大学院研究科長・

法学部教授

江藤 利昭氏

参加議員

小林 正志
佐藤 重信

(斎藤 晋)



『楽しみながら、学んでいます』

いそら
率浦大学



受講生 小林 久美子さん
(紀久栄町)

◆どのような会ですか。

小林 町内の高齢者が月に一度学習会やいろいろな活動を行い、新たな知識を習得し、仲間との交流を深めることを目的としています。

◆どんな活動をしていますか。

小林 先日は町議会を傍聴しました。

議員が「このたびの豪雨被害の対策を県に早急に要望すべき」と町長に強く提言する場面などがあり、町を思う真剣な議員の姿を見ることが出来ました。

◆大切にしていることは。

小林 以前、テレビ番組の講演の中で、高齢になるにつれ、教育と教養を高めることが大事だと聞きました。「教育」は今日、行く所がある、「教養」は今日、用が

ある、という言葉を知り、心に刻んでいます。

◆良かったことは。

小林 月に一度、大学に出掛ける日は、朝のうちに冷蔵庫の中を見渡し、晩の献立を頭に入れたり、きちんと身仕度をして時間までに出掛けることで、一日の生活のリズムが出来ます。そして講座を受講して帰宅すると、とても充実して豊かな気持ちになります。

◆今後の活動は。

小林 体力作りの講座や研修旅行、朝市マラソン大会の給水ボランティア活動などが予定されていて、とても楽しみです。皆さまでも月に一度、率浦大学に通い「今日、用(教養)がある」一日にしてはいかがでしょうか。

(椎名 志保)

がんばってます

地域に愛される
学校目指して



五城目高校3年
生徒会長
新田 葵さん
(高 田)

五城目高校は学校行事として、五城目町民の方々と触れ合う機会をたくさん設けています。

4月に行った「馬場目川クリーンアップ」は、校舎のすぐ近くを流れる馬場目川を美しい状態に保つことを主な目的としています。が、昨年度からは五城目町民の方をお招きし、本校生と一緒にゴミ拾いをする触れ合いの場としての役割ももっています。今年度は昨年度より多くの町民の方々に来ていただきました。来

年度以降、より大きな活動へと発展させたいです。

この他にも、私たちの学校生活を地域の方々に知っていただけるように「五高祭」を実施しました。また、地域の方を学校にお招きするだけでなく、きやどっこまつりへの出店と運営協力、市神祭御神輿巡行への参加など地域活動に積極的に参加しています。

五城目高校が地域に愛され続ける学校を目指し、生徒会として行事の企画や地域の行事に参加していきたいです。

(荒川 滋)

編集

後記



県内では5月18日、5月としては記録的な大雨が降った。五城目町では24時間降雨量170mmを観測。5月ひと月の平均降雨量約135mmを1日で超えた。馬場目川の氾濫が全国に報じられ、床上・床下浸水が82棟に及び、田んぼが土砂で埋没するなど農業被害も多数発生した。人的被害がなかったことだけが救いである。

6月12日トランプ米大統領と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長による史上初の米朝首脳会談が行われた。安倍首相は拉致問題をトランプ大統領にお願いしたようだ。「トランプの禪で取る相撲かな」人任せではなく自分で解決すべきでないか。拉致問題もう時間がない。

石井 光雅